

「教員と学生との懇談会」開催 経営学部



▲正面中央が司会の嶺井教授、右が魚田学部長



▲積極的に意見を述べる学生たち

改善状況は随時 ホームページで報告

経営学部は10月28日、教員と学生との懇談会を生田キャンパスで開催した。同学部では学生からの意見を「学生による授業評価」や学部長あてのEメール等で収集していたが、学生の意見や提案を教員が直接聞くことにより、それらを学部の教育や施策に反映させるために、初めて企画した。

「経営学部に望むこと」をレポートとして書いて応募した28人の中から、11人(2年次2人。1・3・4年次各3人)を選び、魚田勝臣学部長や嶺井正也、大曾根匡両学部長補佐ら経営学部の先生方と意見交換をした。

学生からは「双方向の授業を」「ゼミナールを2年次から履修したい」「奨学金の充実を」「中期・長期のインターンシップを導入してほしい」「ロッカーの設置を」など、生活面から学業

面までさまざまな意見が出された。

「ネチケットの徹底教育を」と要望した2年次の橋本佳映さんには教員側からも反省のことばと授業などに反映することが約束され、出来ることからすぐに実行していくという姿勢が示された。橋本さんは「要望が実現される点に加えて、先輩のアドバイスをいただけるなど、学年を超えた交流が出来たことが収穫です」、3年次の秋山裕太郎くんは「このような会をきっかけに先生方と気軽に触れ合いを持てるような学部になってほしい」と、学生は高い満足度を得たようだ。

司会担当の嶺井教授は「私たち教員が真剣に対応すべき意見が多数出され、有意義だった」と、初の取り組みの効果を話している。なお、懇談会の様子はホームページでも公開し、改善状況などについても随時、報告していく予定。

【ニュース専修12月号3面】

国際経済学科・室井ゼミ 「Fair Trade」商品の販売で身近な国際協力をアピール



▲鳳祭で商品を販売するゼミ生(右端が飯沼さん)

国際経済学科の室井ゼミ(室井義雄教授指導)ではアジア、アフリカ、南米などの人々が伝統的農法、技術を生かして作った衣料品、食品、雑貨など「Fair Trade」商品を11月1、2の両日、鳳祭で販売し、身近な国際協力をアピールした。企画・運営責任者の飯沼美和さん(4年)に話を聞いた。

「公正な貿易」の意味を持つ「Fair Trade」は、適正価格で商品取引を継続することで、発展途上国の人々の雇用、経済的自立、貧困の改善、持続的な生活向上を目指す。

商品の開発、エコロジー性を重視していることも特色で、欧米のNGO活動の中から生まれた。

飯沼さんは、1年次生の時からネパール支援などの国際協力に興味を持ち「Fair Trade」を知った。「その精神をゼミ活動に生かせないかと鳳祭出店を始めました」。

3回目となる今年は規模を拡大し、初めて食品も扱った。飯沼さんと同ゼミの大嶺ちひろさん(4年)が、卒論準備のために出かけたネグロス島(フィリピン)で仕入れてきたオーガニック砂糖やゼミ生手作りのクッキーも並んだ。ゼミ生たちは訪れた人々に一つひとつの商品を説明しながら「商品を買うことで国際協力になります」とPR。売上は2日間で約13万円と上々だった。

室井ゼミのテーマは「発展途上国の経済」。社会学、人類学も取り入れながら日本社会の現状を見つめることも大きな課題だ。快適さを追求する大量生産は、環境汚染などさまざまな弊害をもたらし、日本はもちろん地球規模での問題になっている。

「この取り組みにより、商品がどんな環境、背景で、どんな人たちによって作られているのかを改めて考え、一般の人々にも地道に訴えかけていきたい」

飯沼さんは来年、卒業となるが、鳳祭での販売は今後も後輩ゼミ生たちが継続する。室井ゼミHP=<http://www.h3.dion.ne.jp/~ymuroi>

【ニュース専修12月号3面】

HEIB講座の学生企画発表会 専大リニューアルプロジェクト発表会



HEIB講座(晝(ひる)河(かわ)さおり学生代表・経営3)の学生企画(統一テーマ「専大リニューアルプロジェクト」)発表会が10月16日、生田キャンパスで開かれた。この企画は、今年のHEIB講座夏合宿での行われた学生グループ研究を充実させ、3つの班の発表を公開で行ったもの=写真。

最初の班は「学食」をテーマとし、アンケートによる学食ランキングの発表やスタンプラリー、料理コンテストなど、地域交流の場としてのイベントの開催を提案。2番目の班は「専大周辺の店」をテーマに周辺の店と学生の情報交換の必要性を指摘し、情報発信の方法を提案した。最後の班は「アトリウム」をテーマとし、120年記念館5階のアトリウムを活用し、専大と地域の人々との交流を図るイベント開催を提案した。

発表には出牛正芳学長、大林守HEIB講座運営委員長をはじめ教職員、学生ら約60人が参加、活発に発表を聞いた。

発表終了後、見目洋子HEIB講座運営委員が「各班とも夏合宿時よりブラッシュアップされた内容だった」と講評。出席者の森井瑠美さん、齊藤友子さん(ともに法1)は「提案が具体的で、私たち学生の要望を代弁してくれたと思います。ぜひ実現させてほしい」と話していた。

【ニュース専修12月号3面】

マスコミ講座合宿研修会 集中指導で「文章力」アップ



▲講義をする高田城氏



▲真剣なまなざしで受講する学生たち



▲志望業界に分かれて模擬面接も

放送、出版、広告、新聞などマスコミ業界に就職を希望する学生を対象にした就職課のマスコミ講座合宿研修会が11月22日から3日間、伊勢原セミナーハウスで開催され、3年次生70人が参加し、論作文の文章指導や面接指導を集中的に受けた。

10月に開講された同講座では、マスコミ業界において求められる情報発信能力、文書や会話など言葉による自己表現力、企画力、創造力などを育てることを目的に、内定を得るまでの実力とノウハウを習得する。合宿研修会は、就職試験早期化の傾向と共に例年より1カ月早めて開催。募集日初日の2時間で定員となる人気ぶりだった。講師は、(株)表現技術開発センター所長の高田城氏(元毎日新聞記者)をはじめ、各業界の第一線で活躍する記者、編集者、広告マンなどで、きめ細かく学生への指導にあたった。

映画配給会社志望の漆崎一義くん(文3)は「作文やインタビュー記事を何本も書きました。『簡潔に読みやすく』というコツを学び、以前に比べ文章力がついたと感じています。今後、面接で的確に自己表現が出来るよう、研さんを積んでいきます」と話し、斎藤友香理さん(経済3)は「これまでの学生生活では、目立ったことをしてこなかったと反省しており、自己分析も十分にかたまらず、合宿参加が不安でしたが、高田先生から『ネタがなければ、作ればいい』とアドバイスされ、肩の力がふっと抜けました。合宿の仲間たちからもいい刺激を受けました」と笑顔で話していた。

長年、同講座を担当している高田講師は「最近業界大手に入社する学生も増え、専大の中でマスコミ講座が定着してきたと感じている。専大生としての特性を生かし、自信を持ってチャレンジして欲しい」とメッセージを送っている。

なお、同講座受講生の中から「ニュース専修」学生記者を募り、今後の紙面展開で活躍してもらうことになっている。

【ニュース専修12月号3面】